

| | |
|--|---|
| 課題名 | 乳がん患者の腋窩リンパ節郭清術肩関節可動域制限の発生・予測因子の検討 |
| 承認番号 | 2019-61 番 |
| 研究機関名 | 横浜市立みなと赤十字病院 |
| 研究責任者 | 所属リハビリテーション科 氏名 齋藤 成美 |
| 研究期間 | (西暦) 2020 年 3 月 ~ (西暦) 2020 年 4 月 |
| 研究の意義・目的 | 乳癌腋窩リンパ節郭清術を施行する患者さんのなかで 1 年間のリハビリが終了した時点で肩関節可動域低下が生じた患者さんが存在しました。可動域低下の発生因子と予測因子について検討し、早期から予防する方法や現在実施しているリハビリ評価項目の再検討を行うことを目的とします。 |
| 研究の方法 (対象期間含む) | 2015 年 11 月から 2020 年 1 月の期間に乳癌腋窩リンパ節郭清術を施行されリハビリを開始した全 117 例のうち、リハビリ通院中断例を除外し術後 1 年間リハビリができた 70 例を対象とします。退院直後・術後半年・術後 1 年後に上肢周計と肩関節可動域の測定結果を使用します。また日常生活上の手を使用する困難さの値の質問表のスコアを使用します。そして、術後 1 年が経過した時に術前と比較し、肩関節可動域が 5 度以上もしくは左右で 15 度以上差が生じた場合、術後にリハビリをした人の場合は左右で 15 度以上の低下を認めた方を低下群とし、可動域低下が起きなかった人との間で年齢、患肢側、BMI、術式、郭清判断、再建の有無、術後併用治療の有無、質問表のスコアなどの関係を統計学的に検討します。 |
| 試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む) | 乳がん術後の肩関節可動域制限発生因子の検討による患者指導内容や外来リハビリの頻度、評価項目の見直しに使用します。 |
| 利用又は提供する 試料・情報の項目 | 年齢、患肢側、BMI、術式、郭清判断、再建の有無、術後併用治療の有無、日常生活上での上肢使用困難さに関する質問表 |
| 試料・情報を 利用する者の範囲 | リハビリテーション科 がんリハチーム (本研究代表者: リハビリテーション科 齋藤 成美) |
| 試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先) | リハビリテーション科 齋藤成美 |
| 問い合わせ先 | 当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 リハビリテーション科 氏名 齋藤 成美 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101 |